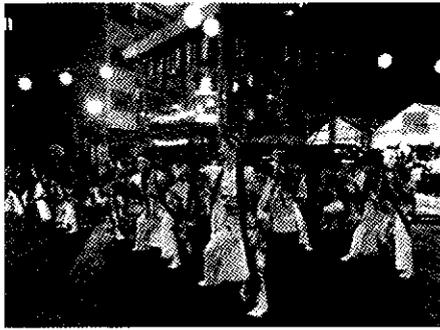




第17ブロック つつじが丘西自治会

つつじが丘西自治会では今年で十年目となる『安心ネット』事業の維持・拡大の推進母体である「ニコニコ茶話会」のサロン活動を進めています。安心ネット事業としては資源回収時の見守り等を継続しています。「ニコニコ茶話会」の活動は年間スケジュールによって、毎月昼食会や映画会、防災と防犯講習会、高齢者の健康管理などの勉強会も実施しています。

今年は新しいテーマ『防災用品の充実と普及』にも取り組んでおり、会員からも愛される自治会のサロン活動にしております。



第18ブロック 西武拝島ハイツ自治会

8月21日・22日に夏祭りを開催しました。初日はあいにくの雨模様、回復を願いながら準備を継続し午後4時スタート。

雨の中、5歳の子供を含む「ジョイソーラン」の熱気が天に通じたか、翌日は晴天。「子供みこし」も練り歩くなど会場はにぎやかな歓声に包まれました。

今年から自治会役員選出を「輪番制」とし危惧もありましたが、懇切丁寧なマニュアルと経験豊かなレジェンド達の手助けもあり、夏の夜を存分に堪能しました。



第19ブロック つつじが丘北自治会

つつじが丘北自治会は、つつじが丘2丁目を主なエリアとし、11階建14棟(12号棟～25号棟)1397世帯、約3300人の自治会です。建物や共有部の維持管理等を行う管理組合と連携し、防災や各種行事の推進、資源回収によるゴミ減量等に取り組んでいます。

特に防災活動は、災害発生時「死者ゼロ」を目指して各棟に防災隣組(互近助ネット北)組織と、誰でも利用できる防災倉庫を各棟に設置し、発災時に全世帯の安否確認を中心に訓練を実施しています。平成28年度の東京消防庁主催の『第13回地域の防火防災功労賞』で最優秀賞(消防総監賞)を受賞しました。

今後の課題は「高齢化(現在の高齢化率約36%)と増加する一人暮らしの方への取組み」です。

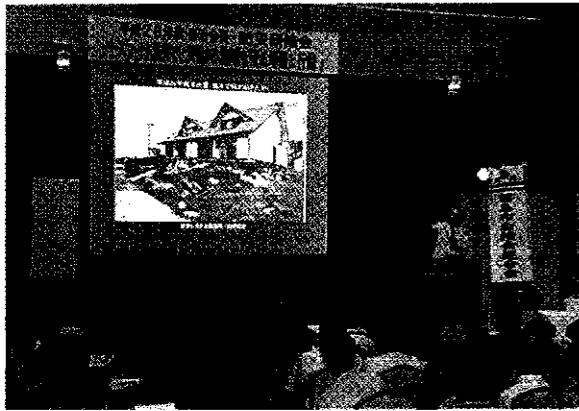


第20ブロック プレイシア自治会

プレイシア自治会では、平成28年9月24日に防災訓練を行いました。プレイシアに住む瑞雲中学生全員と各階委員、防災グループ長を中心に安否確認訓練・初期消火訓練などを実施しました。

特に、女性や中学生に発電機起動訓練の体験や、消火器を使い、そのパワーを体感してもらいました。訓練に合わせて「プレイシア・防災マニュアル」を作成し全戸配布しました。災害は「待ったなし」です。その時に慌てないよう、住人ひとりひとりの意識を高めていきたいと思ひます。





「防災講演会」を実施 講師:山村武彦氏

平成28年7月10日、自治会長研修会で防災アドバイザーの山村武彦氏をお迎えし、防災講演会を実施しました。4月の熊本の震災を中心に“今何をしなければいけないか”の貴重な講演会となりました。主な内容を紹介します。

- “何のために災害に備えるのか？”は、失ったら取り返しの付かない「命と時間」のためです。人が死なないこと、死なせないことです。命より大切なものはない。
- 自治会会員の意識を上げることです。役員だけが高くても会員の意識が低ければ、その地域は犠牲者が多く出ます。
- 役所も被災する。行政だって被災者になってしまうのです。

だから自分たちの地域は自分たちで守るしかないので。自分や家族を守れるのは自分なのです。わが家の安全ゾーンを作る。安全ゾーンというのは転倒落下物の少ない、閉じ込められない場所です。小さな揺れでも緊急地震速報で、直ちに安全ゾーンに移動するということが大事です。

● 普段から小さな揺れや緊急地震速報は、防災訓練開始の合図。地震の時にどうしますか？とお聞きすると「私は火を消しますよ、ドア開けますよ」と言うのですが、大抵の人は「おお、地震だぞ」と言っているだけで何もしない。大揺れになったら逃げられない。歩くことも立つこともできない可能性がある。地震の小さな揺れを感じたり、緊急地震速報を見たり聞いたりしたら、直ちに防災訓練開始の合図と思って、安全ゾーンに移動する／目の前に火があったら火を消す／その場に居合わせた命を守る退避行動／状況に合わせた行動選択訓練が欠かせないので。命を守る訓練をぜひやってほしい。落下物や転倒物で人がけがしたり死んだりしますから、家の中の耐震化(家具転倒移動対策)を徹底的にすることです。「命捨てるな、もの捨てる！」です。…… まずは、自分や家族の命は、自分で守りましょう！

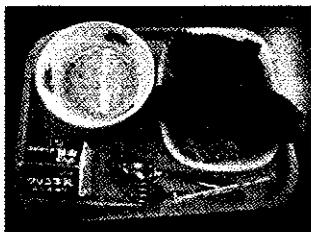


自治連役員で“昭島市内の企業・施設”の視察研修会を実施

平成28年10月26日に自治連役員と事務局26名で昭島市内の企業、施設を6箇所視察しました。

始めに、つつじが丘1丁目の1978年設立の「㈱三井造船昭島研究所」で長さ220mの大水槽や風洞等の施設を駆使し船舶・海洋機器の推進・運動性能に関する設計・研究開発の拠点でした。

次に武蔵野2丁目の平成28年2月から稼働開始の「国分西東京総合センター」は首都圏西部エリアをカバーする常温・冷蔵・冷凍対応の物流拠点ですばらしい施設でした。3番目の東町2丁目の「昭島市学校給食共同調理場」は、市内の中学生1,700食、小学生3,800食分を担当。中学生の給食820kcalを試食しましたが、昭島市内の野菜を多く使っていて美味しかったです。

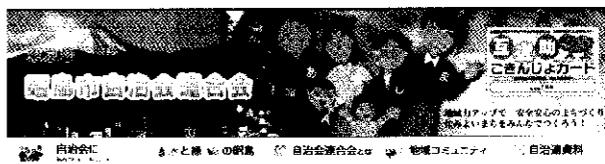


午後から、昭和の森の北側にある幼保連携型認定子ども園「イコロ昭和の森」幼稚園機能と保育所機能の両方を合わせ持つ昭島初の子どもたちが元気に遊び学べる子ども園でした。隣接の特別養護老人ホーム「ハビネス昭和の森」は昭島市初の全室120個室ユニット型の特別養護老人ホームで他に地域包括支援センターや地域交流スペースなども併設されていました。今回の研修会では、研究所や物流拠点が昭島に立地した理由や新施設誕生までのご苦労話をお聞きすることが出来ました。あらためて“昭島の良さ”を再認識することが出来ました。

あらためて“昭島の良さ”を再認識することが出来ました。

- 東日本大震災の前に開始し6年、自治連として発信630回、各自治会分を足すと投稿総数1,500回を超えています。50周年記念誌や自治連会報、自治連だより、総会資料など最近のものも閲覧できます。
- 自治連の活動やお知らせを随時発信しています。
- 皆様の自治会のブログも用意されており、各自治会の活動状況を掲載することができます。

自治連のホームページで情報発信中！



<http://www.akishima-jichiren.jp/>